

（午後3時35分 再開）

○議長（小林 弘君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番12、1番 岡本君。

〔1番（岡本安弘君）登壇〕

○1番（岡本安弘君）皆さま、こんにちは。令和クラブ、岡本安弘でございます。どうかよろしくお願いいたします。

まずは今回の質問に際しご指導いただきました、橋間診療所院長、橋間先生、そして理学療法士、谷口トレーナーには大変お世話になり、ありがとうございます。心より感謝申し上げます。今、ユーチューブを見ていただいておりますので、しっかりと質問をしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、議長のお許しを頂きましたので、通告に従いまして、一般質問を始めさせていただきます。

まず、浮き指とは何か。足指が地面に接していない状態や体の重心の位置がかかと側に移ってしまっている状態のことを言います。人間の足指は左右10本あり、ふだん足の指まで使って踏ん張ることで転ばずに歩いたり、バランスのよい姿勢を保ったりしています。浮き指になると、足の指に力を入れて地面を踏ん張れなくなります。浮き指のまま生活するということは、姿勢をはじめとして、全身のバランスが崩れることにつながりやすくなります。また、浮き指の症状は非常に多種多様で、特定の1本の指だけが目に見えて持ち上がっている場合や、全ての指が床に触れているように見える、逆に全ての指が浮いている場合など、様々な症状が存在します。どれ

もが姿勢の悪化に関係するものです。

まず浮き指の場合、足が地面に接する面積が小さくなり足の指で踏ん張れないため、体を上手に支えることが難しくなり、バランス感覚に異常を来します。そして、そのうまく支えられなかった姿勢を安定させるため、体に不必要な力をかけ続けることとなり、慢性的な肩凝りや腰痛が引き起こされることがあります。指に力を入れられない状態では、かかとに重心が寄り、自然と前のめりの姿勢を取りがちになり、猫背の原因ともなります。また、そのような姿勢で毎日を過ごすことになれば、体の疲労も抜けにくくなります。

そこでお伺いいたします。浮き指についての当局の認識や見解についてお答えください。

以上、壇上からの質問を終わらせていただきます。

○議長（小林 弘君）1番 岡本君の質問、浮き指の改善で健康な体をに対する答弁を求めます。

健康福祉部長。

〔健康福祉部長（久保雅裕君）登壇〕

○健康福祉部長（久保雅裕君）浮き指の改善で健康な体をについてお答えします。

本市の浮き指に対する認識や見解についてですが、浮き指とは両足の10本の指が1本以上地面から浮いている状態のことで、足の指が地面についていないことが原因で、体幹の安定性が低下すると言われております。

浮き指になる原因ははっきりと解明されていませんが、昔のようにはだして歩く機会が減ったことで足指の筋力が低下しやすくなっていることも要因の一つと考えられています。

浮き指の状態が続くと、体重をうまく支えることができず、体幹の筋力をバランスよく

使えなくなり関節に負担がかかりやすくなることで、腰や膝などの痛みにつながると言われています。しかし、加齢により現れる身体の症状は、例えば膝関節の痛みといてもあらゆる要因によることから、まずは医師による診断と治療が基本であると考えます。

また、本市では介護予防を目的としてげんきらり～教室を開催しており、高齢者の体力や歩行動作に必要な筋力を高める運動プログラムである、わかやまシニアエクササイズを取り入れています。また座って運動する、いきいき百歳体操教室も実施しており、各教室を卒業された方が地域で自主的に教室を運営しトレーニングを継続することで、介護予防に取り組んでいただいているところです。

わかやまシニアエクササイズのプログラムに、足の指を握ったり開いたりする運動や、足の指の筋肉と関節のマッサージが組み入れられており、これらが身体バランスを整え、介護予防につながるものと考えています。

今後も、わかやまシニアエクササイズを継続することで、浮き指の改善にもつなげていきたいと考えています。

○議長（小林 弘君）1番 岡本君、再質問ありますか。

1番 岡本君。

○1番（岡本安弘君）ご答弁ありがとうございます。

まず今、浮き指についても当局の意見を聞かせていただいたわけなんですけれども、この浮き指というのは、日本人の約80%の人が浮き指であるというふうに言われております。この議場におられる10人に8人の人が浮き指状態であるというふうに言われておるわけがあります。

それでは、画像をお願いいたします。これは僕の足形を測定したもので、姿勢のゆがみを1分で診断できるAI骨格分析システム、

ポーズンというものでございますけれども、これを見ていただくと、右足はしっかりと指まで5本ついてございます。左を見てみますと、かかとから親指の付け根辺りに力がかかっているのが分かると思います。ちょうど右の上に写真がありますように、まないた台の板の上に乗った状態でiPadで写真を撮るわけなんですけど、これ撮ることによってAIが解析をして、足の指にどれぐらい力がかかっているのかというふうに解析するものでございます。

それで2枚目なんですけど、これはiPadで写真を撮った左側面からなんですけど、これを見ても分かりますように、ピンクの縦のラインというのが、これが僕の体の中心線になります。右の横に矢印が出ているわけなんですけど、これは首が前傾している状態。首が前に前傾しているがためにバランスを取るために、左腕のところに矢印がついていると思うんですけど、これは腰が前へ出ている状態なんです。これで体のバランスを取っているということになります。前から見ると、黄色い縦の線が中心なんですけど、若干やっぱり左に傾いて左肩が下がっています。それで実際のところなんですけども、これで若干見ていただいたら分かるように、中心よりずれているのが分かると思います。左の肩に矢印が出ておるのも分かります。これが今、乗っているのがポーズンという板の上です。画像ありがとうございます。

しっかりと5本の指で立つことによって姿勢を保持するわけなんですけれども、皆さん、ちょっと浅く座っていただいて、足の親指にぐっと力を入れてもらうと、内ももに力が入るのが分かると思います。親指と人差し指は前に倒れない作用があります。

次に、小指側に力をぐっと入れていただくと、お尻の筋肉、へこみのあたりに力がかか

るのが分かると思います。これは後ろに倒れない作用をするものでございます。そして中指は二つの役目を併せ持つ万能な指でありまして、この5本の指がしっかりと地面に接することによって、前に倒れない、後ろに倒れないというバランスをしっかりと取る。これが作用ができていないと、先ほどの写真のように前傾したり、右に傾いたりということが起こるわけでございます。

足の指と体幹の機能の関係については、以前より理学療法士の先生方の中では、約2000年頃から論じられておりまして、しっかりとエビデンス、根拠裏づけにもたくさん出ているものでございます。

そして、足の指と体幹の機能を少し話しますと、この地球上に生きている動物、約9割以上の動物というのは、足の指で歩いているものでございます。

また画像を一つお願いいたします。これは犬や猫、チーターやライオンなどはかかとをつけずに歩いております。指をつけて歩いているんですけど、今、かかととはここ、手首はここという形になっておるんですけど、四足歩行でしっかりと地面に指をつけることによって、足の指から体幹に力を入れているということでございます。動物の世界ですとしっかりと体幹を使っていないと、食事も取れないし、狩りもできないということで、自然に淘汰されていくわけなんですけど、人の場合はそういう自然淘汰はないものですから、何十年と生活することによって、やはりあちこちに痛みが出てくるというものでございます。

そんな中でまた、皆さんに一つしていただきたいことが、机の上に両手で手をついていただいて、1度ぐっと押してください。指先で押してください。指先で押すと、胸と背中、広背筋に力が入るといのが分かると思います。それプラス腹筋にも力が入ると思うんで

すけれども、これがしっかりとこう指で押さえて体幹を鍛えているという状態になります。自然は、人間は2本足で歩きますので、しっかりと地面を捉えることによって腹筋、背筋も使って体幹をしっかりと保っているという状態。これが人が足の指に力を入れることによって体幹が安定するというところでございます。そういったところから、しっかりと皆さんにも理解していただけたんじゃないかなというふうに思います。ありがとうございます。

このように足の指と体幹というのは切っても切れない関係にあり、とても重要であるということも皆さんご理解していただいたと思います。

そこで、この浮き指改善のエクササイズというものがございまして、ノントリエクササイズというものでございます。このノントリというものは、浮き指は体幹に力が入らずに、首、肩、背中中の筋肉が過度に緊張した状態を言います。この間違った姿勢をトリックモーションといいまして、このトリックモーションを何十万回も繰り返すことで、私たちの背骨と関節というものは変形していくというものです。

そして、私たちの生活の中には、このトリックモーションというのはたくさん隠れておりまして、立っているとき、また座っているとき、掃除機をかけるときや洗濯物を干すときなど、いろいろなところにトリックモーションがあるわけですし、それを繰り返すことによって早く背骨であったりとか関節が変形していくというものでございます。足と指をしっかりと設置して体幹を安定させて、首、肩、背中をリラックスさせた姿勢というのがノントリックモーションというもので、これをノントリ姿勢といいます。それを運動化したものがノントリエクササイズというものでございます。このノントリエクササイズとい

うのを今回ご紹介させていただくわけなんですけど、これを考案されたというのが壇上でもお話しさせていただきましたように、橋間診療所の橋間先生が考案されたわけでございます。

簡単にこの先生のご紹介をさせていただきますと、約30年前に整形外科医になることを志して、多くの患者さんを診ておられて、手術をされたりとか、そういうことをしておられたわけなんですけど、どうしても患者さんのほうから、背骨とか関節の変形が止めることができないのかというふうなこともたくさん耳にする中で、自分にしかできないやりがいのある仕事をしたいということから、運動療法を中心とした整形外科、内科のクリニックを開業されております。そして2006年に大阪の岸和田市でスタートされまして、運動療法を続ける方、そして続けようとして続けられなかった方たちの背骨とか関節を約16年間、レントゲンで分析をした結果、体の変形にはやはり一定の法則があることに気づきました。それがこの浮き指というものでございます。これはしっかりと安定しないと、やはり背骨、関節の変形を引き起こすということに至ったわけでございます。

この先生というのも、日本整形外科の学会の認定医であったりとか、同じくスポーツ医、また産業医、学校医ということをいろいろされておまして、実際自分も診療しながら、ノントリエクササイズということを今広めようとされてご尽力いただいているところなんですけれども、一つここでまたご紹介させていただきたいのが、このノントリエクササイズの紹介動画になるんですけど、音声が使えませんので、また文字なんかを読んでいただいて、口頭で説明させていただきたいと思っております。お願いします。

これはずっと歩くための足指体操というこ

とで、ノントリエクササイズの紹介の動画になってございます。高齢になってもしっかりと足の痛みを改善して自分の足で歩いて、健康寿命を延ばしていこうということで、こういった運動を今広げられておるところでございます。高齢者になってもおしゃれをしたりとか、元気で過ごしたいということでありますので、何よりやっぱり自分らしく生きていくということを目的として、このノントリエクササイズはつくられてございます。

これは椅子に座って行うエクササイズなんですけれども、スポーツドクターが考案して今、岸和田で広められて、徐々に幅広く紹介されているものでございます。高齢者ですしっかりと姿勢を取ることによって、痛みが軽減されるというふうな今、報告も受けているところでございます。今、受けている人はズームを使って配信されているところでございます。直接ジムに行かなくても、自宅からスマートフォンを使って配信をして運動をするということが可能であります。女性の方、男性の方ですね。体がすごく楽になったというような本人の声も聞かれるわけなんですけれども。

そして、これが2階、3階にエクササイズルームをつくって、直接行って受けることもできますし、自宅でトレーナーとズームでやり取りをしながら、録画も配信していただいたりとか、そういう形で会員の方々はそういうトレーニングを実際されていらっしゃる。この方がちょうど橋間ドクターになります。浮き指を改善して元気な体を取り戻しましょうというコンセプトの下で、トレーナーが随時、毎日、いろんな形で飽きのこないような形でエクササイズをしていただいております。ありがとうございます。

ノントリエクササイズ、先ほども説明させてもらったように、橋間院長がご自身の経験

の中から考案されて、理学療法士の先生や看護師がトレーナーとなってオンライン配信をしているわけなんですけれども、トレーニングについてはズームを使って1日のうち何本かを録画配信、一つはタイムリーにライブ配信によるエクササイズを行って、飽きのこないように日々更新されているわけなんですけれども、このノントリエクササイズによってしっかりとノントリ姿勢というのを身につけることで、痛みの軽減や介護予防、健康寿命の延伸、それと医療費の削減などが期待されるわけなんですけれども、今年度中は無償でも利用できるということでもありますので、また希望があればAI骨格分析システムのポーズも持ってきていただいて、測定もしていただけるということでもありますので、ぜひともこのノントリエクササイズを本市でも取り入れていただきたいと思いますと思うんですけれども、その辺のお考えについてお伺いいたします。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（久保雅裕君）ノントリエクササイズのご質問についてですが、痛みのない体で一生を歩くことを目的としたノントリエクササイズは、浮き指に発生する症状を改善するメソッドの一つであると考えています。しかしながら、変形してしまった骨や軟骨をエクササイズは元の形に再生しないとされておりまして、エクササイズを通じて痛みの軽減につながる可能性はありますが、痛みの軽減については、基本は医療によるものと私どもは考えています。

現在、和歌山県と和歌山大学が開発した、わかやましニアエクササイズを継続的に地域でも取り組んでいることもあり、浮き指になっていない人もいる中で全体の運動の流れのバランスが変わるということで、現場の混乱や参加者の、そのエクササイズを通して体力

的な負担の課題もあります。

市としては直ちに導入することは難しい状況ですので、ご理解いただきますようお願いいたします。

○議長（小林 弘君）1番 岡本君。

○1番（岡本安弘君）大変残念なご答弁なんですけれども、先日、18番議員のご質問にもありましたように、我々はそれぞれの思いを持って質問をさせていただいているわけなんですよね。市民の皆さんに、これはいいよということで、いろいろ勉強をさせていただいてご提案もさせていただいています。そんな中でもいいことを言っていたいておりましたよね。落ちたナイフを握りなさいという、勇気を持ってということですよ。

先ほどから健康福祉部長も一定ご答弁いただいているんですけど、もちろんこのエクササイズで軟骨の変形であったりというのを治療するという目的ではないんですよ。先ほどからも説明させていただいたように、橋間診療所のドクターが今までそういった変形を見てきた中で、痛みを緩和するというのでこのエクササイズを考えられたわけで、橋間ドクター自身でも手術をしたりとか、そういうこともしているので、もちろんドクターはそういう治療はします。それ以外にもしっかりとノントリ姿勢を取ることで、痛みを軽減していきましょうということで考えられたわけなんですよね。

特に残念やなと思うのが、今ご答弁いただいた中で、これを取り入れることによって現場の混乱や参加者の体力負担の軽減、課題ということをおっしゃっておられましたけど、今、座ってやられるノントリエクササイズをすることによって、なぜ現場の混乱が起こるのかなというふうに思うんですよ。今、橋本市にいらっしゃる高齢者の方が新しいことを取り入れると、なぜ混乱が起こりますか。ま

して今、げんきらり～教室なんか、結構激しい運動をされていますよ。座ってインナーマッスルを鍛える、ゆっくりとしたトレーナーと対面で話をしながらするエクササイズをして、なぜ体力的な負担の課題が起こるんですか。健康福祉部長、そういうお答えでよろしいんですか。橋本市の高齢者の人は、そしたら何か新しいことをすると、それに対応できないということですか。そういう高齢者が多いということですか、橋本市は。

費用対効果って考えたときにでも、今は無償でできますよ。情報を発信するということは大事なんじゃないですか。我々もしっかりと勉強をして提案させていただいているんです。市民の健康のために、子どもたちの健康のために、提案させていただいています。それをこういった理由でやらないというのは、そういうご答弁でいいんですか。お答えください。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（久保雅裕君）現在、各げんきらり～教室におきましても指導員を派遣しています。そんな中で指導員のカリキュラムの中にも、浮き指に関するメニューが入っております。そういったところで、トレーナーとのやり取りの中で十分指に関する指導といえますか、エクササイズは取り入れています。今回、議員ご提案の部分については、既にうちのほうでも一定取り組んでいるというところで考えております。

○議長（小林 弘君）1番 岡本君。

○1番（岡本安弘君）取り組んでいるということなんですけど、スマホでもPCでもそうなんですけど、アップデートって、部長、しますでしょう。日々いろいろやっぱり進化しているわけじゃないですか。今取り組んでいることが最新でないならば、新しいことが起これば、いいものはいいで取り入れるべきじ

ゃないんですか。今やっているからそれでいいんですか。今、エビデンスの下で新しいエクササイズができたわけじゃないですか。それをもうやっているから、情報発信もしないということはどういうことですか。それで市民のサービスの向上というのが守れるんですか。やるやらないは皆さんで決めていただいたら、市民の皆さんが決めたらいいいんじゃないですか。しっかりと情報を提供する。こういうものができました、新しいものができました、どうですか。その中で体力的に無理、混乱するから無理やという答えがあるのであれば、それはそれでいいですけど、発信する側が想定して、そういうことはしません。そしたら今後、新しくいろんなエクササイズができたときには、福祉部長、どうするんですか。今やっていることで十分なんですか。市民には何も教えていかない。やっているから十分。同じことやったら要らない。今言ったようにアップデートされていくわけでしょう、新しく新しく。何で新しいことに踏み込んでいかないんですか。お答えください。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（久保雅裕君）議員おただしの確かに新しい、近年、先生がいろいろ取り組んでこられた実績を基に、議員のほうからのご提案というところは認識しています。確かにうちのほうもすぐにご提案された部分で取り入れていきますという部分は、なかなか地域の混乱といいますか、これ、いいですよという、確かに選択肢の余地というのはございます。今後うちのほうでも、すぐには言いませんけれども、もう一度研究していきながらというところで考えています。ただ、継続的にやっていただくのが一番重要ですので、いろんなプログラム、確かにありますが、うちのほうでは今現在、わかやまシニアエクササイズを中心に展開していると、またラジオ

体操も展開していると、そんなところですので、調査研究の時間を頂きたいと思っております。

○議長（小林 弘君）1番 岡本君。

○1番（岡本安弘君）ありがとうございます。必ずしもすぐというわけじゃなくて、しっかりと情報提供をね、新しくこういういいものができたんですよ、ドクターが考案された、皆さんどうですかということで、広く市民の皆さん、高齢者の人に教えていく、知らしめていく、そういうのは必要でしょう。その上でやっていくのかやっついていかないのか。それは皆さんの自主運営組織で決めていただければいいことであって、その辺はしっかりと調査研究した中で、情報の提供というのはしっかりとやっていただきますようお願いしておきます。

それでは、また質問をさせていただくわけなんですけど、教育長に一点お伺いしたいなと思うんですけど、今ノントリエクササイズ、ノントリ姿勢ということで、いろんな自治体のほうから問合せは来てございます。聞くところによると、河内長野市でやっておられるというようなお話も聞くわけなんですけど、いろんなところからもそういうご依頼とか、これってどうなんやろうという問合せがある中で、7月に開催されるMEET SPORTSという兵庫県のスポーツイベントなんですけど、これ、議長にお許しいただいてないので今、画像には載せれないんですけど、これは7月30、31日に、子どもたちのスポーツを通じて、心と体の健康を育み、子どもたちのスポーツ離れと体力の低下を改善するというので、兵庫県が中心となって、また神戸市とか芦屋市とか宝塚市の教育委員会も後援をして、大々的にやるそういうスポーツの祭典なんですけど、今お話しさせていただいた橋間院長のほうが講演依頼を受けて、その場

でまたノントリエクササイズを行うというふうなことも聞いているわけなんですけど。

それと、また共創パートナーということで、大阪万博にもノントリエクササイズをエントリーしているということですし、医療費の削減とか健康についてということで世界共通の目標であることから、そういうことに参加されるということでございます。各メディアからも注目されておりまして、産経新聞にも掲載されましたし、FNNのプライムオンラインとか報道ランナーなど、取材を受けたりとか、取材依頼も興味を持って依頼されているところです。

高齢者にはどうしても痛みの軽減とかというところで、対処療法的なところを含んだエクササイズになるのかなというふうに思うんですけど、未来を担う子どもたちには予防のエクササイズということで、先ほどからもお話しさせていただいたように、長年間違った姿勢を取ることによって、やっぱり肩凝りだったり腰痛、膝の痛みというのが出てくるんであって、今の子どもたちというのは1歳、1歳半で歩き出して、小学校6年生の子ですらしっかりと歩き出して10年ぐらいです。小学校に入るぐらいのときにしっかりとエクササイズをして、足指を使うという運動を体に覚え込むことによって、将来の子どもたちの腰の痛み、肩の痛み、膝の痛みというのがしっかりと軽減されるんじゃないのかなというふうなことでお話しも頂いておるわけなんですけど。

そんな中で、岸和田市と泉大津市、各2校ずつなんですけど、今1年生に対して、先ほどお話ししましたA Iの骨格分析システムのポーズで足圧を測定して、この足指の体操が導入されているわけなんですけれども、その中でホームルームとか体育前の準備運動として、この学校では工夫をして取り入れてい

るということでございまして、高齢者に対しては約30分程度なんですけど、子ども用にはまたつくり変えて、約5分程度のそういう運動を取り入れているそうです。先日は、その橋間診療所の理学士のトレーナーが学校に向いて、子どもたちへの足指の体操などを指導したということも聞いてございます。今後、AI骨格分析システムで子どもたちの足形を取って、また親御さんにも了解を取りながらそういうデータを今後蓄積していくということでございますので、今後またそのデータを個人情報にも留意しながら、厚生労働省とか文部科学省のほうにも浮き指について働きかけていくというふうなことも聞いてございますので、今後また国から何らかのアクションが起きることも考えられるわけなんですけど、今の子どもたちのノトリ姿勢というのが現状大事であるというふうに認識するところなんで、今後本市でもこの足指の子どもたちに対する体操というのを取り入れていただきたいというふうに考えるわけなんですけど、その辺、教育長のお考えをお聞かせいただけたらと思います。

○議長（小林 弘君）教育長。

○教育長（今田 実君）岡本議員のご質問にお答えをさせていただきます。

子どもたちの姿勢など四肢に関する問題というのは以前からも指摘されておりました、平成26年に学校保健安全法施行規則が一部改正され、平成28年4月から毎年この頃、行われている健康診断の中に、四肢の状態をチェックするというような項目が加えられました。その中ではどんなふうにされているかということ、おうちで保護者の方が子どもの様子を見て、ちょっとここ気になるよ、具体的に言うと、背骨の曲がり具合が気になるよとかそういうことなんですけれども、気になることがあったり、学校で教員が子どもを見ている

中で気になるようなところがあったら、事前にまとめをして、健康診断のときに校医の人にそういう状況を伝えていろんなアドバイスをもらい、もしも学校の勉強の中で、これはちょっと支障が出てくるよというようなことがあったら、専門のお医者さんにつなげるというような、そんな取組をしてございます。

今回、ご提案いただいていることについては、まだ私たちも、一応いろんな面で調べたりはしているんですけども、専門的な知識は持ってございません。ですから、校医の先生、また医師会の方々のご意見を頂きながら、今後どんな取組がいいのかということについては検討していきたいと思っております。その中で学校で勉強を進めていくためにやっぱりこれは必要やということになるならば、取り組んでいく必要が出てくることも考えられます。そういったことも含めて検討していきたいと思っております。

以上です。

○議長（小林 弘君）1番 岡本君。

○1番（岡本安弘君）ありがとうございます。健康診断でも今、足指の状態とかを見ていただいているということでありますので、先ほども言いましたように、小学校で歩き出して10年、11年というところというのはなかなか体の変化というのは見抜きにくいところで、その先で10年、20年経過することによって、やはり体の痛みというんか、変化というのが出てくると思うんです。子どもたちで肩が凝ってしゃあないとか、腰が痛いとか、膝が痛いんよというような子どもというのはほとんどいてないと思うんですよ。やっぱりそれは正しい姿勢を取ってないがゆえに先々で体に変化が起きてくるということですので、その辺やっぱりその変化というのもしっかりと見ていく必要があるのかなと思います。

今、岸和田市と泉大津市のほうで子どもた



ちの足指を測定して、しっかりとエビデンスの下で足指のトレーニングをして、その体の変化というのも調べておりますので、その辺また教育長を中心に、橋本市ではどうしていったらいいのかというのもしっかり考えていただいて、もしそういう形で医師会とも相談しながら、また、橋間診療所のほうからもそういうのも協力していただけるということでございますので、また医師会と連携しながら、子どもたちの健康というのをしっかりと学校側で、教育長を中心に守っていただきたいと思っておりますので、今後ともどうかよろしく願いいたします。

それでは、私の一般質問を終わります。

○議長（小林 弘君） 1 番 岡本君の一般質

問は終わりました。

---

○議長（小林 弘君） お諮りいたします。

本日の会議は、この程度にとどめ延会し、6月22日午前9時30分から会議を開くことにいたしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小林 弘君） ご異議がありませんので、そのように決しました。

本日はこれにて延会いたします。ありがとうございました。

（午後4時14分 延会）